

双葉郡 未来創造型リーダー育成構想

(第3次双葉地区教育構想)

令和6年9月27日

目次 双葉郡未来創造型リーダー育成構想（第3次双葉地区教育構想）の全体構成

- 1 双葉地区教育構想の経緯（平成18年～平成28年） 3
～富岡高校を拠点とした双葉地区教育構想の概要と震災前の連携～
- 2 双葉地区未来創造型リーダー育成構想の総括（平成29年～令和5年） . . . 4
～ふたば未来学園を拠点とした双葉地区教育構想の実現～
 - (1) ふたば発、世界に向けた変革者の育成
 - (2) 新時代のトップアスリートの育成
 - (3) 多様な主体との連携・絆づくり
- 3 構想を見直すべき理由 7
- 4 新構想の骨組みと重視すべき視点 7
- 5 新構想のアクションプラン 8
 - (1) ふたば発、世界に向けた変革者の育成
 - (2) 新時代のトップアスリートの育成
 - (3) 多様な主体との連携・絆づくり
 - (4) 多様性を認め合う社会の実現
- 6 双葉郡未来創造型リーダー育成構想（第3次双葉地区教育構想）の概要図 13

1 双葉地区教育構想の経緯（平成18年～平成28年）

～富岡高校を拠点とした双葉地区教育構想の概要と震災前の連携～

○経緯詳細は『双葉地区 未来創造型リーダー育成構想（平成29年3月策定）』を参照

○JFAアカデミーからの人材育成プログラムの提案

- ・平成16年に（財）日本サッカー協会（JFA）から県に対し、「日本サッカーのレベルアップと社会をリードし世界に通用する人材育成プログラム」の提案が示された。

○「双葉地区教育構想基本方針最終まとめ」と双葉地区教育構想推進会議の設置

- ・富岡町、楡葉町、広野町の教育委員会や中学校、富岡高校、県及び県教委に加え、JFAなどの関係機関も参画し、平成17年に「双葉地区教育構想基本方針最終まとめ」をとりまとめ、「双葉地区教育構想推進会議」を設置した。

○県立富岡高校の連携型中高一貫教育における特徴的な取組

- ・双葉地区教育構想は、「真の国際人として社会をリードする人材の育成」を基本目標とし、富岡高校と連携中学校4校との間で、連携型中高一貫教育を行うこととした。
- ・平成18年、富岡高校は普通科から国際・スポーツ科に転換し、3コース（国際コミュニケーション、福祉健康、国際スポーツ）を設定、トップアスリートの育成などにおいて着実に成果を上げていった。

○震災による富岡高校の休校

- ・平成23年、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生し、富岡高校は県内外5つのサテライト校により運営されたが、避難指示解除時期が不透明な中、生徒数が減少し、平成27年度から生徒募集を停止、平成28年度末をもって休校することとなった。

○ふたば未来学園の開校

- ・双葉郡8町村の教育長は、教育の復興を果たすために議論を重ね、平成25年7月に「福島県双葉郡教育復興ビジョン」をまとめて双葉郡に中高一貫校の設立を提案した。県教委も認識を共有し、検討を重ね、平成27年4月、双葉郡の町村立中学校との連携型中高一貫教育校としてふたば未来学園高校を開校、平成31年4月には併設中学校を開校した。

2 双葉地区未来創造型リーダー育成構想の総括（平成29年～令和5年）

～ふたば未来学園を拠点とした双葉地区教育構想の実現～

（1）ふたば発、世界に向けた変革者の育成

- ・平成27年度に開校したふたば未来学園高校は、令和元年度に併設中学校の開校と同時に新校舎に移転した。建学の精神として掲げた「変革者たれ」の下、地域や世界を舞台に自らを変革し、地域を変革し、社会を変革していく変革者の育成を目指し、特色ある教育活動を展開している。

○探究（未来創造学、未来創造探究）

- ・開校時より文部科学省からスーパーグローバルハイスクール等の指定を継続して受けており、原子力災害からの復興を果たすグローバル・リーダーを育成している。また、中学校の未来創造学、高校の未来創造探究において正解のない課題の解決に挑み、国内外での実践を通して復興等に関する諸問題に向き合っている。

○グローバル人材の育成(NZ研修、DE研修、NY研修、サッカーDE研修、留学生)

- ・実践的な英語力やグローバルな課題の解決に必要な資質・能力を育成するため、ニュージーランド（中学3年）、ドイツ（高校1年）、ニューヨーク（高校2年）等での海外研修を行い、本県復興の発信だけではなく、海外からの来校者や留学を志す生徒が増加するなど大きな成果を上げている。また、サッカー部ドイツ研修については、富岡高校時代から取り組んでいる真の国際人として社会をリードする人材の育成に寄与している。

○スペシャリストの育成（農業、工業、商業、福祉）

- ・地域を支えるリーダーとして活躍する人材の育成を目指し、専門的な知識・技能の習得を図る教育を展開し、卒業生は専門性を生かして地元で就職したり、進学してスキルをさらに高めている。
 - － 農業...草花の栽培に加え、食品（焼菓子等）製造に取り組み、地元の特産品を用いた商品開発、製造・販売を実施。
 - － 工業...電気や機械等の幅広い分野を学び、ものづくりや再生可能エネルギーの知識・技能や実践力を育成。
 - － 商業...簿記や会計等の資格取得に取り組むとともに、企業と連携した商品開発と販売を実施。
 - － 福祉...外部講師の協力を得て「生活援助従事者研修」、「介護職員初任者研修」を開講し、専門性の高い即戦力となる人材を育成。

○指導体制と教育環境の整備

- ・全県から集まった教職員が専門性を生かし、企画・研究開発部を設置して、NPO法人カタリバのスタッフと連携し特色ある教育活動を展開している。地域協働スペース、みらいシアター、アクティブ・ラーニング・スペースのほか、スポーツ専用施設やトレーニングルームなどの施設も充実している。また、遠方からの入学者や住民帰還を促進するために2つの寮を設けて生徒に安心・安全な生活環境を提供している。

○中高一貫教育

- ・併設型中高一貫教育の6年間のカリキュラムを通して、グローバルな視点で地域や世界で活躍できるリーダーやアスリートを育成している。また、双葉郡8町村の中学校との連携型中高一貫教育も行っており、広野中学校や檜葉中学校への高校の英語教員やALTの派遣、福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会との連携事業にも取り組んでいる。

2 双葉地区未来創造型リーダー育成構想の総括（平成29年～令和5年）

（2）新時代のトップアスリートの育成

- ・アスリートとして競技力のみならず、スポーツを通して地域の復興や活性化に貢献する人材の育成を目指し、ふたば未来学園高校のトップアスリート系列の全ての競技種目を対象として、練習環境の整備や指導体制の充実を図った。

○J F Aアカデミー

- ・平成30年のJ F A理事会において、男子は令和3年度より1学年ずつ、女子は令和6年度に全学年で県内での活動を再開するという方向性が決定され、福島での活動再開に向けた動きが本格的に進んだ。また、令和2年のJ F A理事会において、国内のユース年代を取り巻く基盤整備が大幅に進んだことから、男子プログラムを中高6年間から中学3年間へ変更することが決定され、高校生男子のプログラムは令和5年度で終了した。
- ・この間も「世界基準」をキーワードにサッカーを通じた真の国際人の育成が進められ、卒校生は190名（男子147名・女子43名）におよび、なでしこジャパンや年代別代表、プロ選手を輩出し、東京オリンピックやパリオリンピックにも出場している。

○県版サッカー

- ・令和元年度、男子は新校舎に設けたサッカー場、女子は広野町多目的グラウンドに活動拠点を移し、競技力向上のみならず地域における競技普及に係る活動も継続している。男子はJ F Aから派遣された指導者の下、県高校大会・県サッカー選手権ともベスト8の成績を残した。女子についても県高校大会優勝、東北大会3位などの成績を収めるなど実績をあげ、他県からの入部希望者も多い。
- ・双葉地区教育構想草創期の卒業生が教員となりサッカー部の指導を行うなど、教育効果の好循環が発生し始めている。

○ビクトリープログラム（バドミントン、レスリング部の活躍）

- ・世界で活躍するトップアスリートを育成するため、福島県スポーツ協会等と連携したビクトリープログラムにより中高6年間を通して競技力の向上に取り組んでいる。

（バドミントン）

- ・令和元年度に新校舎に設けたバドミントン場に活動拠点を移し、福島県スポーツ協会から派遣された2名のインドネシア出身のスペシャルコーチの協力を得て競技力向上に取り組んだ。国内大会での優勝だけでなく、国際大会でも優勝するなど顕著な成績を残すとともに、双葉郡内への競技の普及にも貢献した。富岡高校時代の卒業生の中には東京オリンピックやパリオリンピックに出場した者もいる。

2 双葉地区未来創造型リーダー育成構想の総括（平成29年～令和5年）

（2）新時代のトップアスリートの育成

○ビクトリープログラム（バドミントン、レスリング部の活躍）

（レスリング）

- ・令和元年度に新校舎に設けたレスリング場に活動拠点を移し、県スポーツ協会から派遣されたスペシャルコーチの協力を得て競技力向上に取り組んだ。近年活躍が目覚ましく、中学生、高校生とも国内大会で入賞するだけでなく、世界選手権で優勝するなど顕著な成績を残した。今後の卒業生の活躍が大いに期待される。

○硬式野球

- ・令和元年度に新校舎に設けた野球場に活動拠点を移して競技力向上を図り、地域で定期的にボランティア活動も行っている。春季福島県大会ベスト4、県高校野球選手権ベスト8などの成績を残しており、卒業後も大学で競技を続ける者が多いほか、プロ野球選手として福島レッドホープスに入団した者もいる。

（3）多様な主体との連携・絆づくり

○双葉郡教育復興ビジョン推進協議会との連携

- ・本構想と双葉郡教育復興ビジョンは深く関連し相乗効果が高いため、ふたば未来学園は双葉郡教育復興ビジョン推進協議会と密に連携して、小学校絆づくり交流会、中高生交流会、ふるさと創造学サミット、教員研修会、生徒会連合などの行事を双葉郡内の小中学校の児童・生徒や教員とともに実施してきた。また、これらの行事を経験した小中学生が、卒業後にふたば未来学園高校に入学して行事運営に協力したり、農業や工業の分野などのスペシャリストとして双葉郡内に就職したりするなど、連携の成果が現れてきている。

○県内外、外国の教育機関との連携

- ・平成29年度から令和元年度において、県教委主催で、県内の高校の教員を対象に、新しい時代に必要となる資質・能力の育成を目指すふたば未来学園高等学校の教育活動について現地で研修する機会を設けた。令和2年度からは、「アクティブ・ラーナー養成研修会」として、県内の全校がふたば未来学園高等学校の取組を学び、さらに発展させた研修を行った。また、県教委主催の「ふくしま高校生社会貢献活動コンテスト」やふたば未来学園高等学校における生徒研究発表会などとおして、県内の高校と成果を共有した。さらに、平成27年度から令和元年度まで、スーパーグローバルハイスクールとして、また、令和2年度から令和4年度まで、地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）の指定校として、県内外及び海外の学校と交流しながら、同校における取組の成果を共有し、波及させた。

3 構想を見直すべき理由

○社会情勢の変化を踏まえたコンセプトの見直し

- ・現構想の改訂から7年が経過し、この間、第7次福島県総合教育計画がスタートしたほか、ふたば未来学園高校併設中学校の開校と新校舎への移転、双葉郡町村への小中学校の帰還や義務教育学校の開校、JFAアカデミーの帰還、FREIの設立など、構想をとりまく様々な社会情勢が変化している。

○ふたば未来学園を核とした真の国際人の育成の更なる推進

- ・現構想下の中核となるふたば未来学園は、高等学校の開校から10年目を迎え、県内でも唯一無二の先進的なプログラムを実施し、「新たな地域社会を創造するグローバル・リーダーの育成」に寄与している。これらの成果を総括するとともに、改めて課題を整理し、第2期復興・創生期間後の双葉郡の教育の在り方を検討する必要がある。
- ・令和5年度からスタートしたWWL事業は令和7年度に完成年度を迎えるが、課題先進地域ならではの先進的な取組として双葉郡全体に横展開を図る必要がある。

4 新構想の骨組みと重視すべき視点

○新構想の基本目標の承継

- ・「真の国際人として社会をリードする人材の育成」を基本目標として承継し、さらに発展・実質化させる。

○新構想の名称、期間、推進体制

- ・名称は「双葉郡未来創造型リーダー育成構想（第3次双葉地区教育構想）」とする。
- ・新構想の期間は明確には定めない。ただし学校の帰還等、状況に応じて見直すことも検討する。
- ・現構想から引き続き、ふたば未来学園を中心として双葉郡8町村の枠組みを維持することとし、双葉地区教育構想推進会議の4部会（総務部会、教育部会、スポーツ部会、JFAアカデミー福島部会）体制も維持する。

○新構想が目指す双葉郡の将来像

- ・グローバル化する社会の中、多様性を受け入れ、育み、生かしていく（ダイバーシティ・インクルージョン）社会の実現
「双葉郡を多文化共生社会の先進地に」

5 新構想のアクションプラン①

(1) ふたば発、世界に向けた変革者の育成

○育成したい人材

- ・原子力災害からの復興を果たし、新たな社会を創造する資質や能力を兼ね備えたグローバル・リーダーを育成する。
 - 地域や世界の課題と自己の夢とを重ね合わせ、当事者として行動する市民性
 - 立場・価値観の違いによる分断や対立を止揚する協働的ネットワーク構築力
 - 地域の資源を見出し、世界に新たな価値を創造する力を兼ね備えた人材の育成

○ふるさと創造学

- ・「ふるさと創造学」とは、教育と地域活性化の相乗効果を生み出すため、平成26年度から双葉郡8町村の小中高校で共に進めている探究的な学習の総称である。今後は、小中学校の帰還の状況も踏まえ、双葉郡全体で「ふるさと創造学」の取組を継続発展させ、児童生徒の交流や地域課題への取組の成果の共有、教職員による事例研究・発表等を通じて双葉郡内の学校間の連携を強化することで、双葉郡全体で魅力ある教育プログラムを推進していく。

○未来創造探究

- ・「未来創造探究」とは、ふたば未来学園高校が実践する探究的な学習の総称で（ふたば未来学園中学校では「未来創造学」と呼ぶ）、ふるさと創造学とも軌を一にする取組であり、令和5年度から文理融合したグローバル・イシューや高度な学問分野との接続を強化したゼミ編制としている。これまでの課題意識を引き継ぎつつ、実社会と結びついた真正（Authentic）な課題に向き合う探究・課題解決の実践を通じて、福島の核となる問い（根源的な課題 Essential Questions）と向き合い、各教科の個別の知識の中核にある「重大な観念」と、関連する概念を獲得させることを目的とし、学術分野ごとにし、今後も既存の学問領域を超え、文理融合の分野横断的なゼミ編制としていく。
- ・双葉郡の小中高生が一堂に会する探究発表の機会に高校生の発表を設定し、小中学生にとっての学びのロールモデルとしての姿を地域内に共有することで、地域全体の学びの変革につなげる。

○外国語教育（グローバル・スタディ科、連携中学校における英語授業の推進）

- ・ふたば未来学園中学校では、外国語（英語）の授業では、1年間で教科書を4～5回繰り返すラウンド方式の授業を取り入れるとともに、習熟度別指導と少人数指導を柔軟に取り入れ、A I型タブレット教材を活用しながら個に応じた学習支援を行っているほか、スピーチやプレゼンテーションの機会を多く設けている。
- ・ふたば未来学園中学校では通常の英語の授業に加えて、「グローバル・スタディ科」で実践的な英語力を身に付け、実践的な英語力の伸長、中学校卒業までに英検準2級以上の取得を目標にする。
- ・ふたば未来学園高校の英語教員が広野中学校や楡葉中学校で英語の授業を実施するなど、グローバル人材育成に向けた取組を進めてきており、今後は、双葉郡内の中学校とのより一層の連携に向けて検討を進める。

5 新構想のアクションプラン①

(1) ふたば発、世界に向けた変革者の育成

○グローバル人材の育成

- ・ふたば未来学園は、文部科学省のWWLコンソーシアム構築支援事業の拠点校として、県内外の連携校や協働機関とともに福島アドバンスト・ラーニング・ネットワークを構築するなど、地域の課題とグローバルな課題の双方の解決を図る学習プログラムの研究・開発・実践に取り組んでいる。今後は、これまでの実績を生かしながら、高校生国際会議を通して海外の学校との交流を一層促進し、グローバルに学ぶ環境づくりを推進していく。なお、WWLコンソーシアム構築支援事業終了後の在り方については、今後検討する。
- ・震災からの復興に向けて、グローバルな視点で考え、地域の発展に貢献する真の国際人として社会をリードするトップリーダーの育成を図るため、国際理解事業を実施するなど、多様な人々との共生と対話ができる人材の育成を図る。

○スペシャリストの育成

- ・地域や世界で活躍するスペシャリストを育成するため、ふたば未来学園高校の各系列において、生徒が主体的に学ぶことができるよう教育課程を見直しながら、特色ある教育活動を展開していく。
- ・アカデミック系列においては、高校卒業後の進路や学問の継続性を踏まえた文理融合型の新しい探究科目を設け、スペシャリスト系列においては、地域と密に連携した農業・工業・商業・福祉の専門教科の指導を行い、トップアスリート系列においては、サッカー・バドミントン・レスリング・硬式野球の競技を通して人材育成を行う。
- ・取組に当たっては、各分野の専門家はもとより、地域人材の協力も得ながら勤労観の醸成に努め、生徒に地域や世界で活躍したいという意欲も喚起しながら、福島イノベーション・コースト構想の実現を担う人材や、地域を支え即戦力として活躍する人材の育成を目指す。

○中高一貫教育

- ・併設型中高一貫6年間のカリキュラムを通してグローバルな視点で地域や世界で活躍できるリーダーやアスリートを育成するほか、双葉郡8町村の中学校との連携型中高一貫教育を行い、高校の英語教員やALTの派遣、福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会との連携事業にも取り組む。

○指導体制や教育環境の充実（教員の配置、研修など）

- ・ふたば未来学園及び連携する双葉郡の町村立中学校に探究的な学習を指導できる教員を配置する。
- ・ふたば未来学園の事例をもとにした探究学習に係る教員研修の機会を確保し、課題の解決にむけた探究学習を展開できる教員を増やす。また、復興・特色ある教育活動を行えるようにするため、ふたば未来学園中学校・高等学校に教員を加配する。

5 新構想のアクションプラン②

(2) 新時代のトップアスリートの育成

○育成したい人材

- ・世界に伍するトップアスリートを育成するため、関係機関との連携を強化し、ふたば未来学園トップアスリート系列の競技を核として競技力の向上を図る。また、競技力向上はもとより、スポーツを通して地域の復興や活性化に貢献するとともに、多様性を理解し、互いに尊重し合える共生社会の実現に積極的に取り組むことができる人材を育成する。

○J F Aアカデミー福島

- ・令和6年4月から14年ぶりに男女揃っての福島での活動が再開したことを踏まえ、引き続きJ F Aからふたば未来学園高校サッカー部への指導者派遣などにより、競技力の向上はもとより、サッカーを通じた人材育成を進めるとともに、アカデミー生が県内の文化や県民にふれあう機会を創出することで、福島県を「第二の古里」として愛着を持ってもらえる取組をより一層進めていく。

○ふたば未来学園サッカー部

- ・J F Aからの講師派遣や専用の人工芝グラウンド、さらにはJヴィレッジやJ F Aメディカルセンターの支援を受けられるなど恵まれた環境で練習を積むことで、トップアスリート、生涯スポーツにおけるリーダー育成に取り組む。
- ・海外研修に選手を派遣するなど、真の国際人として社会をリードする人材の育成に寄与する。

○ビクトリープログラム（バドミントン、レスリング）

- ・スペシャルコーチの招聘や充実した生活環境（寮）の整備など、中学校・高校6年間の一貫した指導プログラムを通して、高度なスポーツ技術だけではなく、国際感覚とコミュニケーション能力、優れた人間性を身に付けたトップアスリートの育成を行う。

(バドミントン)

- ・バドミントン競技においては、中学校、高校とも全国有数の強豪校に成長し、卒業生がオリンピックに出場するなど、本県スポーツの「宝」となっている。今後もさらなる競技力の向上と人間性の育成に向け、練習環境の整備等、サポート体制の充実に努めていく。

(レスリング)

- ・レスリング競技においても、世代別世界選手権大会で優勝する選手が出るなど、世界で活躍できるトップアスリート育成の競技として躍進している。今後も、さらなる競技力の向上と人間性の育成に向け、遠隔地大会への出場や部員数の増加を見据えた遠征費の支援等、サポート体制の充実に努めていく。

○インターハイ男子サッカー固定開催

- ・復興のシンボルでもあるJヴィレッジで、高校生が熱戦を繰り広げることにより全国から多くの人々が訪れ、本県、双葉郡の魅力を発信する機会とする。開催枠で県内の出場校が増えることにより、双葉郡のみならず本県全体の競技レベルの引き上げにも繋がることが期待される。

5 新構想のアクションプラン③

(3) 多様な主体との連携・絆づくり

○双葉郡教育復興ビジョン協議会

- ・平成25年7月に、震災後の子どもたちの学びを守り、未来を生きる強さを持った人材を育てることを目指し、双葉郡8町村の教育長を中心に「福島県双葉郡教育復興ビジョン」（以下「ビジョン」）が取りまとめられた。
- ・「福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会」は、「ビジョン」の具現化に向けて設置されたもので、公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構が事務局となっている。
- ・双葉郡内各校の児童生徒が「ふるさと創造学」における取組を共有し成果を発信する「ふるさと創造学サミット」、双葉郡内小学校の子どもたちの交流の場である「小学校絆づくり交流会」、双葉郡内中学校・高等学校の生徒が一堂に会する「中高生交流」など、町村、校種の垣根を超えた交流・学びの機会を設けるなどして、「ビジョン」の具現化を今後も目指していく。

○双葉郡地域学校協働本部

- ・「双葉郡地域学校協働本部」は、双葉郡8町村の地域コーディネーターが連携して地域や企業団体との協働を進めるために平成27年に発足した。地域コーディネーターは、基本的に各市町村に1名おり、本部コーディネーターと連携して町村を超えて情報を共有し、学校をサポートしており、今後も「ふるさと創造学」などの推進に寄与していく。

○WWL連携校

- ・令和5年度に文部科学省に採択されたWWLコンソーシアム構築支援事業においては、以下の事業連携校や事業協働機関とともに、福島アドバンスト・ラーニング・ネットワークを形成し、高度な学習プログラムの研究・開発・実践・検証することとしている。
 - － 県内事業連携校：福島、安積、会津、会津学鳳、磐城
 - － 県外事業連携校：宮城県仙台二華、山形県立東桜学館
 - － 海外事業連携校：国連国際学校（アメリカ・ニューヨーク）、エルンスト・マッハ（ドイツ）、ブロック・ハウス・ベイ（ニュージーランド）
 - － 事業協働機関：福島国際研究教育機構（F-R-E-I）、東北大学、早稲田大学、福島大学、福島イノベーション・コースト構想推進機構、認定NPO法人カタリバ双葉みらいラボ

○ふたばの教育復興応援団

- ・作詞家の秋元康氏や劇作家の平田オリザ氏、前日本サッカー協会長の田嶋幸三氏や元環境大臣の小泉進次郎氏など、各界で活躍する16名の著名人が特別授業などで支援いただいております、引き続きこれらの御縁を大切にしていこう。

5 新構想のアクションプラン④

(4) 多様性を認め合う社会の実現

○F-R-E-Iの設立や外国人住民の増加も踏まえた多文化共生環境の醸成

- ・日本語指導が必要な外国人児童生徒やその保護者に対し、学校を含めた、日本の生活自体に慣れるための初期指導教室などの整備の必要性を検討する。
- ・言語や宗教など、多様性を受け入れる環境整備とともに、地域ならではの教育と外国語での授業等を視野に入れた魅力的な教育を展開するために、地域の学校や関係機関等との連携を考えていく。

○演劇を軸とした表現コミュニケーション教育の充実や教員の配置

- ・ふたば未来学園の中高6年間の探究のカリキュラムの中で、自己理解の深化、表現コミュニケーション能力の育成、創造力の育成を図る演劇教育は、生徒に複雑な社会の課題を解決する力を着実に身につけさせてきた。
- ・学校設定科目である「地域創造と人間生活」における演劇創作では、異なる価値観との対話や協働を通して多様な見方・考え方を育成しているほか、「表現コミュニケーション」においてはノンバーバルなコミュニケーション能力も育成している。また、令和6年度から特例により教科「芸術」の選択科目の一つとして「演劇Ⅰ」を開講し、芸術としての演劇の良さを学ぶことができるプログラムを開発している。これらの取組を推進するため、特別選考で演劇専門の教員を採用しており、新たな教育プログラムの開発とともに、県内他校への更なる普及が期待される。

○インクルーシブ教育システム構築の推進

- ・令和6年度に檜葉町に帰還するふたば支援学校は、双葉郡における特別支援教育の基幹となる学校として、特別な支援を必要とする児童生徒の教育的ニーズに応じた連続性のある学びを提供・保障する役割を果たす。
- ・「地域支援センター」としての機能を発揮し、双葉郡に根ざした相談支援や研修支援等の活動を行うほか、校内に「双葉地区支援員」を配置し、特別な支援が必要な児童生徒に適切な指導と必要な支援を提供するとともに、卒業後も暮らしやすい環境の整備を進め、地域に参入した企業等の情報収集と就労先の開拓、卒業後のフォロー体制の整備等の就労支援に取り組み、魅力ある地域づくりにつなげる。

6 双葉郡未来創造型リーダー育成構想（第3次双葉地区教育構想）の概要図

－新構想の基本目標と目指す将来像－

基本目標

「真の国際人として社会をリードする人材の育成」を承継

目指す将来像

「双葉郡を多文化共生社会の先進地に」

－新構想のアクションプラン－

1 ふたば発、世界に向けた変革者の育成

- ・ふるさと創造学や未来創造探究などの魅力ある教育プログラムを推進
- ・実践的な英語授業やWWL事業の取組を推進し、グローバル人材を育成
- ・探究的な学習を指導できる教員を確保・養成するなど教育環境の充実

2 新時代のトップアスリートの育成

- ・ふたば未来学園高校トップアスリート系列の競技を核とした競技力の向上
- ・スポーツを通じた地域復興や活性化、共生社会実現に寄与する人材の育成

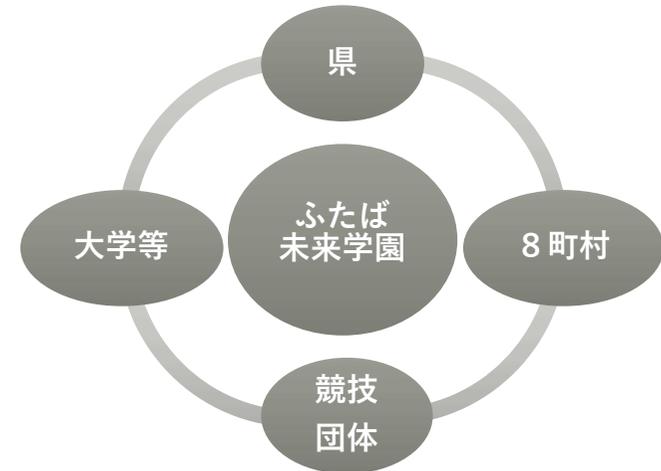
3 多様な主体との連携・絆づくり

- ・これまでの連携を強化しながら新構想においても連携・絆の輪を広げる

4 多様性を認め合う社会の実現

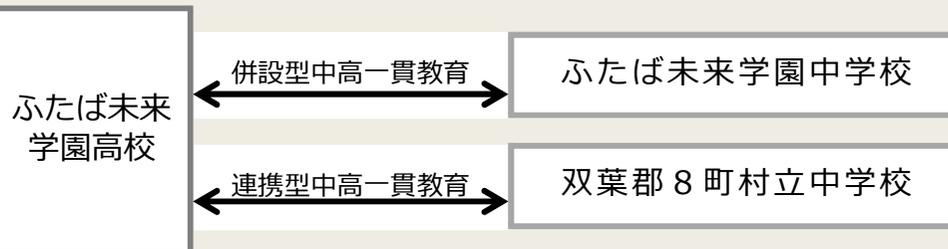
- ・F-REIの設立や外国人住民の増加も踏まえた多文化共生環境の醸成
- ・演劇を軸とした表現コミュニケーション教育の充実
- ・ふたば支援学校を基幹としたインクルーシブ教育システム構築の推進

－新構想の推進体制－



県	企画調整部 文化スポーツ局 教育庁
8町村	広野町 檜葉町 富岡町 川内村 大熊町 双葉町 浪江町 葛尾村
競技団体	県スポーツ協会 J F A アカデミー福島 県サッカー協会 県レスリング協会
大学等	福島大学 東日本国際大学 J I C A

連携



双葉郡教育復興ビジョン推進協議会
双葉地域域学校協働本部
WWL事業（R5～R7）等の連携校
ふたばの教育復興応援団 F-REI等